

東西交流の起源：日本・メキシコ・スペイン交流 400 周年記念

チチェン・イツツアの 太陽の刻印

メキシコのアイデンティティ 密林に眠るマヤ文明の世界

2014 年 10 月 3 日 金 曜日

2-301 教室 13:15 開演 / 13:30 講演



アルトゥーロ・モンテロ博士
テペヤク大学
大学院研究センター長

El Sello del Sol en Chichén Itzá
Dr. Ismael Arturo Montero García
Director del Centro de Estudios de Posgrado
Universidad del Tepeyac México



クukulカンの降臨

Descenso de Kukulcán

メキシコ・ユカタン半島北部、聖なる泉「セノーテ」を中心にイツツア族が 450 年頃から興したチチェン・イツツアはマヤ最大規模の都市遺跡。

狂おしいまでに、太陽、月、金星の運行を観測するマヤ民族。

水と農業を司る、羽毛の生えた蛇神クukulカン (Kukulcán) を祀る神殿ピラミッド「エル・カスティージョ」では、春分と秋分の日の午後、夕日に照らされて黄金色に輝くクukulカンのたうちまわりながら天から降りてくる。

マヤの宇宙観を表象する壮麗にして深遠なエル・カスティージョ、マヤ研究の第一人者がメキシコ古代文明メソアメリカの世界に誘う。

